

夢や希望をもつ児童の育成

～ 教科・特別活動等と道徳の時間を関連付けた総合単元的な道徳学習の実践を通して ～

新富町立富田小学校
教諭 東 公代

目 次

I	研究主題	3-1
II	主題設定の理由	3-1
III	研究目標	3-1
IV	研究仮説	3-2
V	研究計画	3-2
VI	研究構想	3-2
VII	研究の実際	3-3
1	研究の基本的な考え方	3-3
(1)	「夢や希望をもつ児童の育成」とは	3-3
(2)	「関連付ける」ことの重要性	3-3
(3)	「総合単元的な道徳学習」とは	3-3
(4)	道徳教育と道徳学習とは	3-3
2	理論研究	3-4
(1)	総合単元的な道徳学習計画について	3-4
(2)	関連を図るための指導	3-4
3	実践研究	3-6
(1)	総合単元的な道徳学習計画の作成・実施について	3-6
(2)	総合単元的な道徳学習計画の具体的な実践例	3-7
(3)	検証の実際	3-9
ア	アンケートの実施	3-9
イ	事前指導	3-9
ウ	道徳（検証授業Ⅰ）	3-9
	第6学年 「小村寿太郎」	
エ	学級活動（道徳の時間との関連を図った授業）	3-11
	第6学年 「将来の夢について考えよう」	
	第6学年 「未来をえがこう」	
オ	教育課程外での活動	3-13
カ	道徳（検証授業Ⅱ）	3-13
	第6学年 「また 勝てばいい 羽生善治」	
キ	国語 第6学年「作品の世界を深く味わおう」（道徳の時間との関連）	3-15
ク	音楽 第6学年「音楽に思いをこめて」（道徳の時間との関連）	3-17
VIII	成果と課題	3-18
1	成果	3-18
2	課題	3-20
	《引用文献・参考文献》	3-20

I 研究主題

「夢や希望をもつ児童の育成」

～教科・特別活動等と道徳の時間を関連付けた総合単元的な道徳学習の実践を通して～

II 主題設定の理由

21世紀は、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤として重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代である。このような知識基盤社会化は、アイデアなど知識そのものや人材をめぐる国際競争を加速させる一方で、異なる文化や文明との共存や国際協力の必要性を増大させている。このような状況において、とりわけ「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の調和を重視する「生きる力」を育むことがますます重要になっている。一方、OECD（経済協力開発機構）のPISA調査などの各種の調査から、現代の日本の児童生徒には「自分への自信の欠如」や「自らの将来への不安」といった問題等が指摘されている。

平成23年度に実施された全国学力調査によると、「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童の割合が86.8%という結果であった。本県においても、平成23年度に実施された県の学力意識調査の中で「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童の割合は84%という結果であった。全体的に高い数値ではあるが、逆にいえば「将来の夢や目標をもっていない」と考えている児童が16%存在しているということでもある。

このような状況を踏まえ、本県では、第二次宮崎県教育振興基本計画の施策の目標Ⅱに「生きる基盤を育む教育の推進」として学校における道徳教育やその推進体制等の充実が掲げられており、「将来の夢や目標をもって職業や生き方を考えている児童生徒の割合」目標値を100%とし、「将来の夢や目標をもって職業や生き方を考える」児童の育成を図るための教育活動を推進している。このことから、夢や希望をもつ児童の育成について研究することは、今後本県の教育を推進していく上で大変意義のあることだと考える。

また、夢や希望については、道徳の時間の第5学年及び第6学年の内容項目1—(2)「より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する」と直結しており、道徳教育の充実を図ることが夢や希望をもつ児童の育成につながると考えた。

学習指導要領の中で、学校における道徳教育においては、「道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳の時間はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童の発達の段階を考慮して適切な指導を行わなければならない。」とある。一方、道徳の時間においては、「道徳教育の目標に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成するものとする」とある。従って、「教科・特別活動等と道徳の時間を関連付けた総合単元的な道徳学習計画」を作成し、常に意図的・計画的に授業実践を行うことで、より未来への夢や希望をもつ児童の育成を図ることができるのではないかと考え、本主題を設定した。

III 研究目標

教科・特別活動等と道徳の時間を関連付けた総合単元的な道徳学習の実践を通して、意図的・計画的な指導の在り方を究明し、より夢や希望をもつ児童の育成を図る。

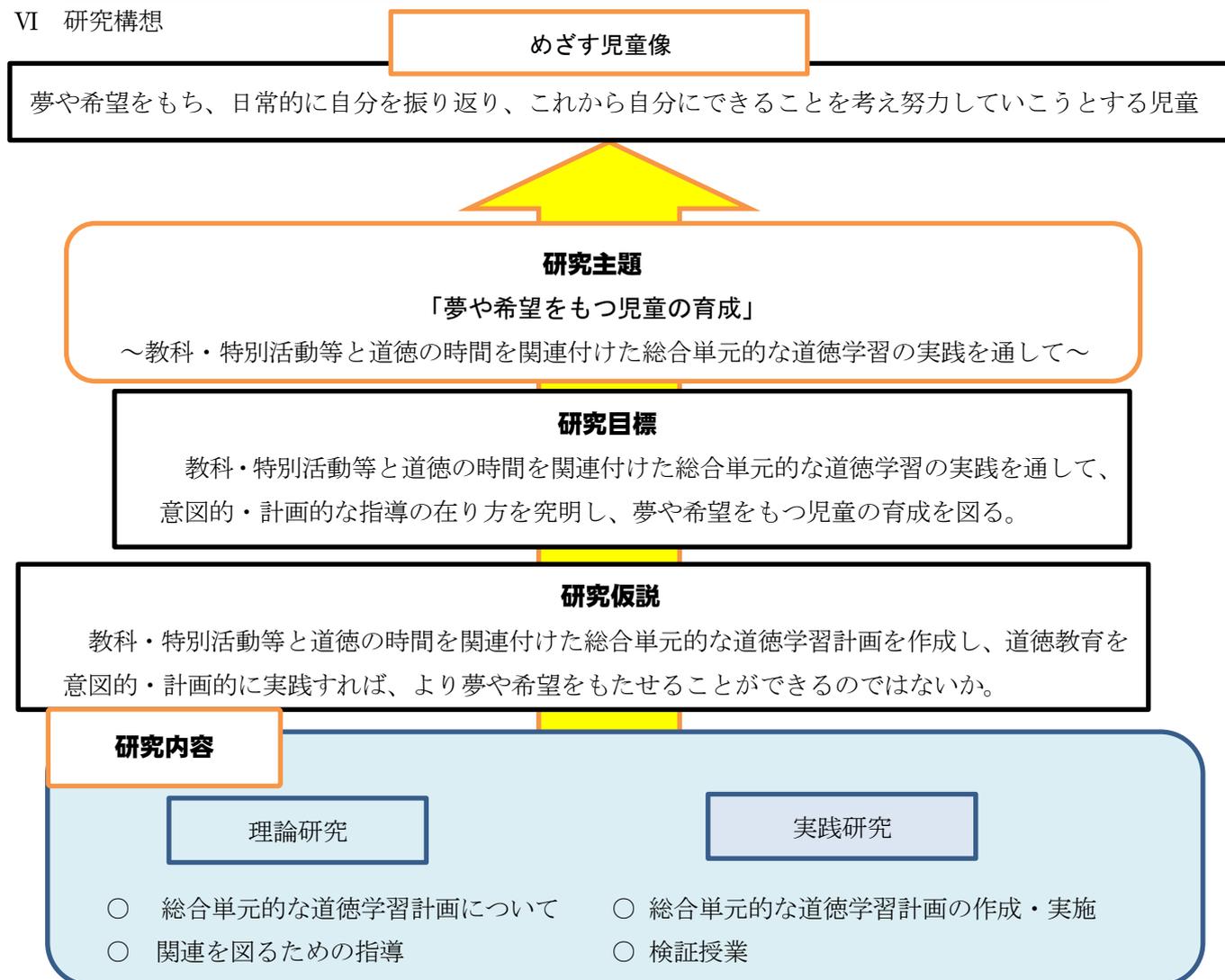
IV 研究仮説

教科・特別活動等と道德の時間を関連付けた総合単元的な道德学習計画を作成し、道德教育を意図的・計画的に実践すれば、より夢や希望をもたせることができるのではないか。

V 研究計画

月	研究内容	備考
4	研究主題・副題の決定、研究計画の立案	
5	理論研究、研究概要の決定、実態調査の実施と分析	富田小学校
6	検証授業Ⅰの準備	富田小学校
7	検証授業Ⅰの実施（7月4日）、検証授業Ⅰにおける分析と考察	富田小学校
8	中間発表の資料作成、中間発表の実施（8月28日）	富田小学校
9	検証授業Ⅱの準備、検証授業Ⅱの実施（9月21日）	富田小学校
10	検証授業Ⅱにおける分析と考察、研究のまとめ	
11	研究状況説明会の資料作成と実施、研究のまとめ	
12	仮説と実践の検証、研究のまとめ	富田小学校
1	研究報告書の作成、研究のまとめ	
2	研究報告書の作成、研究発表の準備	
3	研究発表	

VI 研究構想



VII 研究の実際

1 研究の基本的な考え方

(1) 「夢や希望をもつ児童の育成」とは

本研究は、児童一人一人が単に「夢や希望をもつ」ことだけをめざすものではない。「夢や希望をもつ」ことで、日常的に自分を振り返り、これから自分にできることを考え努力していこうとする児童を育成することと捉える。

(2) 「関連付ける」ことの重要性

学習指導要領には道德教育の目標が「道徳的価値の自覚を深めることにより道徳性を育成すること」と示されている。また押谷 由夫氏は、「道徳的価値の自覚を深めるためには、自分を振り返り見つめ、考えることを繰り返すことが大切である」と述べている。このことから「自分を振り返り見つめ、考えることを繰り返す」ためにも、児童の「道徳的価値に対する意識を持続化すること」が重要であると考えられる。

この「道徳的価値の意識」を教科、特別活動等と道德の時間と関連付けて持続化を図り、道德教育の充実を図れば、道徳的価値の自覚を深めるとともに、児童は自分を振り返り、これから自分にできることを考え努力していこうとする主体的な児童の育成につながるのではないかと考えた。

(3) 「総合単元的な道德学習」とは

これからの道德教育については、次のような指摘がある。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">① 「生きる力」の育成を目指し行われる各教科等の指導が一層、関連的、発展的に進められる必要があること。② 体験的な学習や問題解決的な学習が重視される新しい教育課程においては、必然的に特定の教科の枠の中だけでは解決できない活動が増えていること。③ 体験の意味や結果を振り返り、それをもとに自己を見つめる道德の時間が計画的に配置されていなければならないこと。 |
|---|

(「山梨県教育総合センター 道德教育指導資料」一部要約)

また、前述の押谷由夫氏は、総合単元的な道德学習を、「道德の時間の目標・役割はそのままにし、その前後に子どもが主体的に関わる道德学習を計画し、それらの一連の過程を総合単元的な道德学習と考え、子どもたちが主体的に学習していけるための支援の在り方考えることである」とし、「これからは、自ら学ぶ主体的な学習の時間となるべきである」と述べている。

この考え方を基に、総合単元的な道德学習とは、「道德の時間の目標・役割はそのままにし、道德の時間の重点指導内容項目の価値と関連する教科、特別活動等での活動を道德の時間と結び付け、価値に対する児童の意識や心の動きが持続して、価値の自覚が深められていく(道徳的価値の意識の持続化) ようにし、一人一人の道徳性を高めていくようにすること」と定義付けた。

(4) 道德教育と道德学習とは

道德教育とは、「よりよく生きたいという願いやよりよい生き方を求め、実践する人間の育成を目指し、その基盤となる道徳性を養う教育活動のこと」と学習指導要領に述べられている。育成を目指す、道徳性を養うというところから指導者側の言葉と捉える。これに対し道德学習は、児童が道德教育を主体的に学ぶという言葉と捉える。

2 理論研究

(1) 総合単元的な道徳学習計画について

総合単元的な道徳学習計画を作成するにあたって、要となる道徳の時間の位置付けは重要である。道徳の時間の中での道徳的価値の意識が教科・特別活動等と関連付けられ持続化が図られることにより、児童の主体的な道徳学習につながると考える。

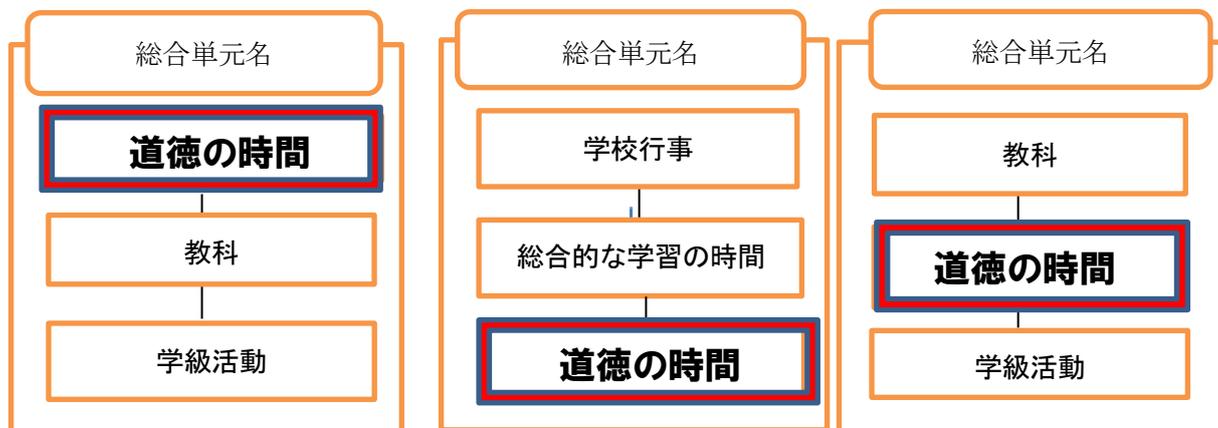
総合単元的な道徳学習計画での道徳の時間の位置付けにおいては、次の3パターンが考えられる。

- | |
|----------------------------|
| A 道徳の時間の後に教科・特別活動等を位置付ける。 |
| B 道徳の時間の前に教科・特別活動等を位置付ける。 |
| C 道徳の時間の前後に教科・特別活動等を位置付ける。 |

【パターンAの例】

【パターンBの例】

【パターンCの例】



パターンAでは、道徳の時間の学びを意識して教科・特別活動等をすることが想定される。そしてその活動を通して、道徳的価値の自覚を深めることが可能である。

パターンBでは、事前に行った教科・特別活動等での体験と結び付けて道徳的価値の自覚を深めることが可能である。

パターンCでは、パターンAとパターンBのどちらの効果も期待できると考える。この3つのパターンを基本として、児童の実態等に合わせ、組み合わせを考えて、計画を立てることで児童の道徳的価値の意識の持続化を図るようにする。

なお、ここで注意しなければならないことは、道徳の時間のための教科・特別活動等にならないようにすることである。あくまでも、教科・特別活動等には、それぞれのねらいがあり、そのねらいを達成することが重要である。

(2) 関連を図るための指導

ア 教科・特別活動等と道徳の時間との関連を図ること

教科・特別活動等と道徳の時間の時期を近づけてそれぞれの授業を行うことだけでは関連は図れない。そこで、内容や教材の関連性の明確化や総合単位としての目標設定を実施することが必要であると考えられる。

学習指導要領には、教科・特別活動等と道徳の時間との関連について「道徳の時間で取り上げたことに関係のある内容や教材を扱う場合には、道徳の時間における指導の成果を生かすと、それぞれの学習内容が深まる」と記されている。

イ ポートフォリオの活用

総合単元的な道徳学習計画において、教科・特別活動等と道徳の時間との関連を図るための手立てとして、ポートフォリオを活用した。

ポートフォリオとは、学習の過程で生み出される様々な情報等を、時間の流れに沿って1つに綴じておくことである。そこから自分の成長が発見できたり、再構築して新たなものを作り出したりすることが期待できる。それは、自己評価にもつながり、次の学びにつなげていくことができる。

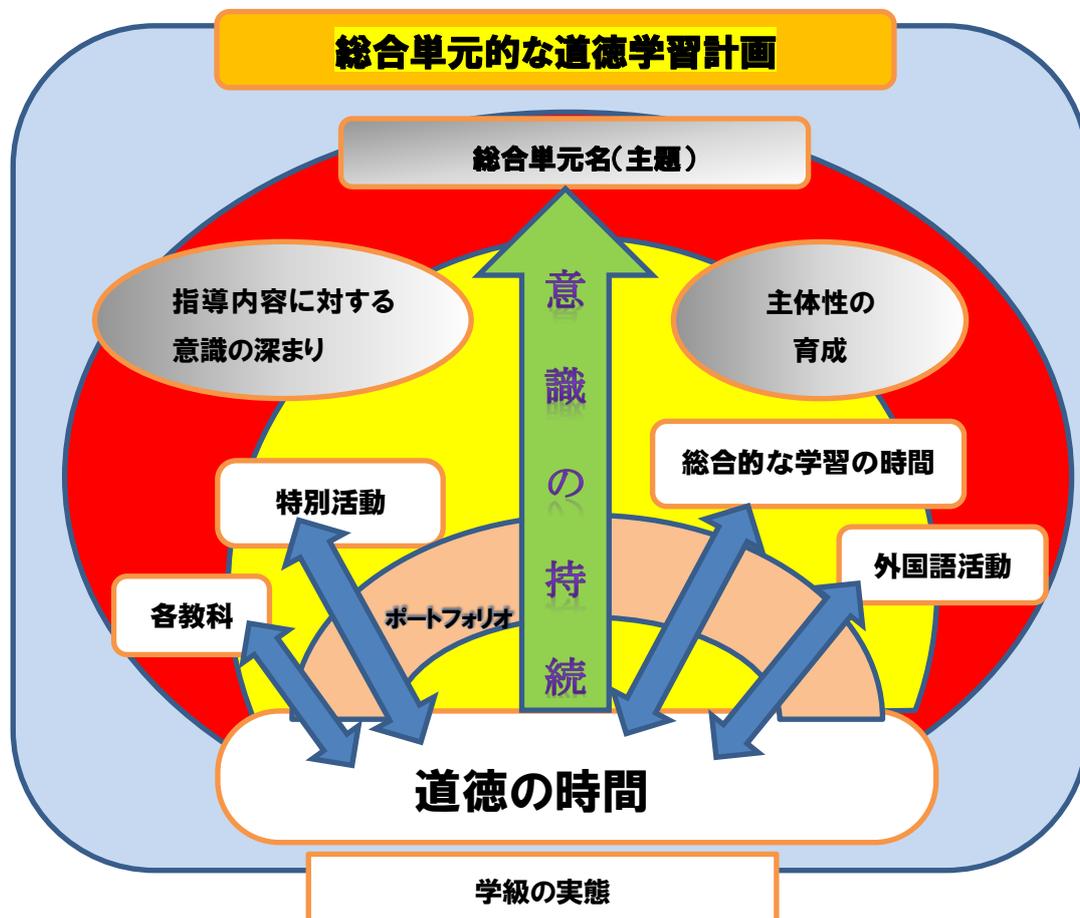
そこで、授業の導入や終末の段階で使用したワークシートや手紙などを、ファイルに綴じるといったポートフォリオを繰り返し活用することが、児童の意識を持続させる上でより効果的なのではないかと考えた。ポートフォリオ活用の有効性をまとめると【表1】のようになる。

【表1：ポートフォリオ活用の有効性】

児童	指導者
授業で使用したワークシートや手紙等を綴じて、何度も振り返ることで意識の持続化を図ることができる。	児童の実態をつかむことができ、意図的に授業の際に活用し、関連を図った授業の展開ができる。
友達からのアドバイスや教師からのコメントを読んで、主体的に道徳的实践に移そうとする意欲をもつことができる。	児童が書いた言葉に教師がコメントを書き、認めることで、道徳的实践の意欲付けを行うことができる。

これまでの考え方を図式化すると、【図1】のようになる。

【図1：総合単元的な道徳学習計画の考え方】



3 実践研究

(1) 総合单元的な道德学習計画の作成・実施について

押谷氏の理論に基づき、総合单元的な道德学習計画を次のような手順で作成した。

ア 総合单元的な道德学習計画作成の手順

- ① 総合単元名(主題)の設定
- ② 総合単元名(主題)における内容項目と関連性のある学習活動の抽出
- ③ 総合単元名(主題)における内容項目と関連性のある学習活動の精選
- ④ 前学年や次学年の道德の時間と「総合単元名(主題)」との関連性の明確化
- ⑤ 総合单元的な道德学習計画の作成

各手順の具体的な内容及び留意点は次の通りである。

① 総合単元名(主題)の設定

総合单元的な道德学習計画を作成するにあたって、総合単元名(主題)を設定することが第一である。

この総合単元名(主題)設定においては、学校経営ビジョン、学級の実態、保護者・教師・地域の願い等を考慮して設定することが大切である。

年間に1つないし2つを学校の実態に応じて設定し、無理のないものにする。

本研究においては、第二次宮崎県教育振興基本計画の施策目標Ⅱ「生きる基盤を育む教育の推進として学校における道德教育やその推進体制の充実」の中に「将来の夢や目標をもって職業や生き方を考えている児童生徒の割合100%を目標とする」という項目があること「夢や希望をもつ児童の育成」が学校経営ビジョンの中にもあること、アンケート調査で、40%の児童が「夢をもっていない」という学級の実態であることを考慮し、総合単元名(主題)を「夢や希望をもとう」と設定した。

② 総合単元名(主題)における内容項目と関連性のある学習活動の抽出

総合単元名(主題)を設定した後は、総合単元名(主題)における内容項目と関連性のある学習活動を教科等年間指導計画表等から選び出す。

本校は、道德教育全体計画表【表2】を作成している。全体計画の中に関連する内容項目がそれぞれの学習に全て掲げられているので、それらを抜き出した。

【表2：新富町立富田小学校 道德教育全体計画表 一部例】

主な学校行事	始業式 入学式 身体測定 避難訓練	交通安全教室 避難訓練	移動教室 プール開き 避難訓練		プール納め 秋季運動会 避難訓練	読書旬間 遠足 避難訓練	文化的行事 社会科見学 避難訓練	避難訓練	書き初め 避難訓練
6年生にかかわる学校行事	始業式 身体測定 避難訓練	交通安全教室 避難訓練	移動教室 プール開き 避難訓練	避難訓練	プール納め 秋季運動会 避難訓練	読書旬間 遠足 避難訓練	文化的行事 社会科見学 避難訓練	避難訓練	書き初め 避難訓練
道德	見送られた二十球-松井秀喜 1-(4)正直誠実・明朗 1-(4)正義感 1-(6)個性伸 伊能忠敬 1-(2)希望・勇気・努力	よみがえれ、海より一も脚に木を植えた漁師たち 1-(2)自然愛 1-(1)基本的な生活習慣 1-(5)真理・創意進取 1-(3)自由・自律 1-(4)責任	共に生きるために 2-(3)友情 この手に命を受けて一國交なき医師団 3-(1)生命尊重 「あたりまえ」をやぶるかぎ-白川英樹 1-(5)真理・創意進取 おばあちゃんの心 4-(5)家族愛	雨-星野富弘 2-(2)親切 班長になったら 4-(3)役割・責任	希望の中で見つけた光 3-(1)生命尊重 根久島の家で 3-(2)自然愛 千年の夏を作る-山本洋一 4-(7)郷土愛・愛国心 悔の勇者 4-(3)役割・責任	レジにて 2-(2)親切 絵地図の思い出 2-(3)友情 1-(2)希望・勇気・努力 4-(6)受取心 やっばり気になる 4-(1)責任	マリー・キェリー 1-(5)真理・創意進取 太平洋のかけ橋に-野戸福造 4-(8)国際理解 図書館員の名前 4-(1)責任		
学級活動(1)	学級の組織をつくろう 1-(3)自由・自律	学級活動の年間計画を立てよう 1-(2)希望・勇気・努力	ボランティア活動をしよう 2-(2)親切	仲良しスポーツ集会 2-(3)友情	夏休みの体験発表会をしよう 1-(5)真理・創意進取 1-(2)希望・勇気・努力	読書集の計画を立てよう 1-(2)希望・勇気・努力	私たちのよき発表会の計画を立てよう 1-(2)希望・勇気・努力	卒業文集に載せる内容を決めよう 1-(5)真理・創意進取	今年の目標発表会 1-(2)希望・勇気・努力
特活	職上級生としての自覚 4-(4)受取心	下級生の世話 2-(4)謙虚・寛容	家庭学習の工夫 1-(1)基本的な生活習慣	楽しい給食交流 1-(1)基本的な生活習慣	修学旅行へ参加 2-(3)友情	読書の範囲を広げよう 1-(5)真理・創意進取	私の 1-(2)希望・勇気・努力		卒業までの計画 1-(2)希望・勇気・努力
その他	1年生を迎える会 4-(4)受取心	クラブ開始 1-(6)個性伸	七夕集会 3-(3)友情						

全て選び出す

国語	声に出して伝え合おう 3- (2) 自然愛	美月の夢 2- (5) 尊敬・感謝	社会に目を向けて 3- (2) 自然愛 ぼくの世界、きみの世界 1- (5) 真理・創意進取 2- (3) 友情 武士の世界の中をさくろう 4- (7) 郷土愛・愛国心 1- (1) 基本的な生活習慣	短歌と俳句 4- (7) 郷土愛・愛国心	みんなであつろう「未来の車」 2- (2) 親切 3- (2) 自然愛
社会	大昔の暮らしをのぞこう 1- (5) 真理・創意進取 2- (4) 謙虚・寛容				新しい日本の国づくりを見つめよう 4- (7) 郷土愛・愛国心 4- (8) 国際理解
算数	倍数と約数 3- (3) 歌げん	平均とその利用 4- (1) 規則尊重・公德心・権利義務		単位量あたりの大きさ 4- (1) 規則尊重・公德心・権利義務	比例 4- (1) 規則尊重・公德心・権利義務
理科	ものの燃えかたと空気 1- (5) 真理・創意進取	動物のからだのはたらき 3- (1) 生命尊重	植物のからだのはたらき 3- (2) 自然愛		生き物のくらしとかんきょう 3- (2) 自然愛
音楽	「おぼろ月夜」 3- (2) 自然愛	世界の音楽に親しもう 「シェリートリント」他 4- (8) 国際理解		様子を思いがけて「われは海の子」 1- (2) 希望・勇気・努力	
図工	思いを広げて 4- (8) 国際理解				
家庭		衣服を整えよう 1- (1) 基本的な生活習慣	金銭や物の使い方を考えよう 1- (1) 基本的な生活習慣		
体育	短距離走・リレー、ハードル走 1- (2) 希望・勇気・努力	表現 1- (2) 希望・勇気・努力 2- (2) 親切	遊技運動 1- (2) 希望・勇気・努力	クロール・平泳ぎ 3- (1) 生命尊重	

全て選び出す

③ 総合単元名(主題)における内容項目と関連性のある学習活動の精選

選び出した学習の中から、児童の価値に対する意識の持続化が図られ、より主体的に関わることができる学習活動をさらに精選し、【表3】のように一覧にする。

【表3】

道徳の時間	特別活動等	各教科
夢や希望をもって (小村寿太郎)	将来について (将来の夢)	音楽: 音楽に思いをこめて
夢や希望をもって (また、勝てばいい 羽生善治)	将来について (未来をえがこう)	国語: 作品の世界を深く 味わおう

④ 前学年や次学年の道徳の時間と「総合単元名(主題)」との関連性の明確化

前学年や次学年の道徳の時間と「総合単元名」のつながりを把握し、系統性をつかんでおくことで、見通しをもって指導することができる。総合単元的な道徳学習計画の外枠に前学年、次学年の道徳的価値に対するねらいを掲げるようにする。

⑤ 総合単元的な道徳学習計画の作成

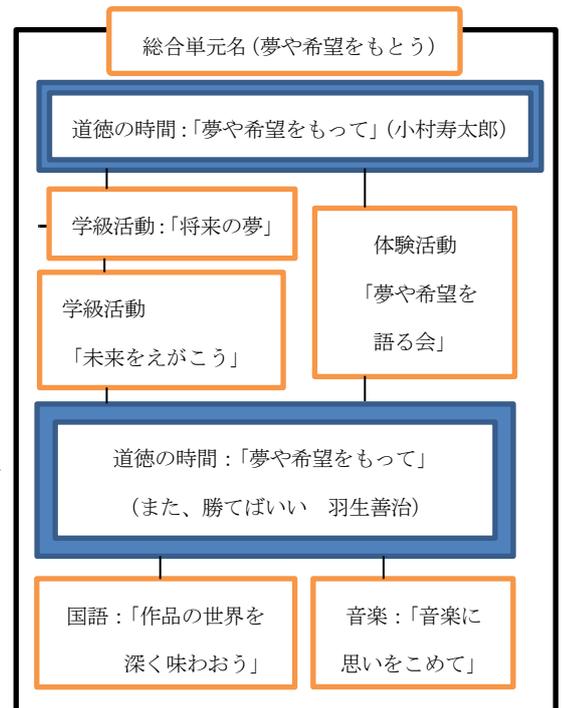
【図2: 総合単元的な道徳学習計画の基本構想】

要となる道徳の時間を、総合単元的な道徳学習計画の中の教育活動とどのように関連付けるか、意図的・計画的に配列していく。その際、各教科・特別活動等の年間指導計画の配列はできるだけそのままにし、児童の価値に対する意識が持続できるように工夫する。

(2) 総合単元的な道徳学習計画の具体的な実践例

ア 総合単元的な道徳学習計画の基本構想について

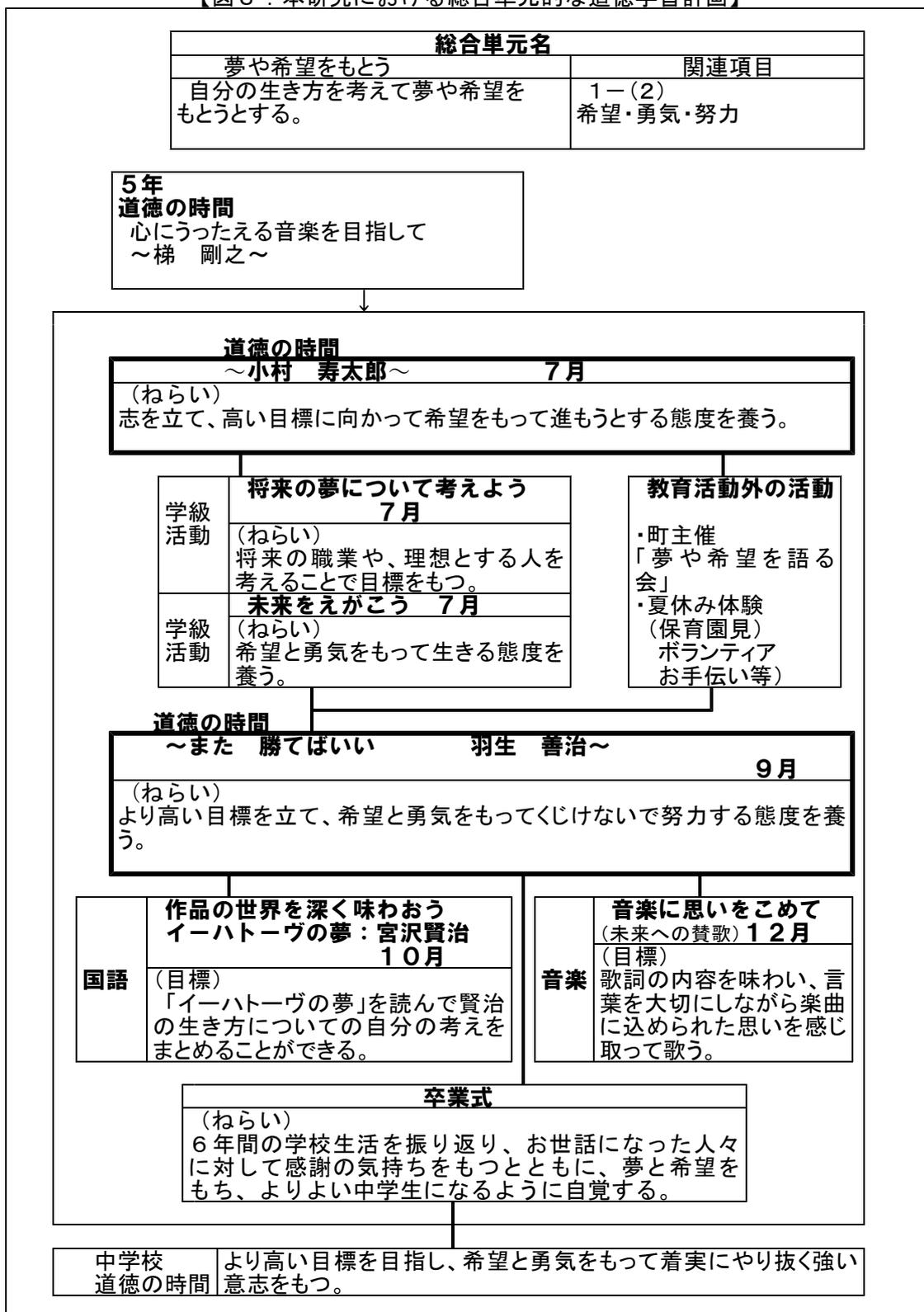
本校では、「夢や希望をもつ」主題と直接関係のある重点指導項目が2回位置付けられていることから道徳の時間を、【図2】のように配列した。理論研究で、総合単元的な道徳学習計画について述べた際の、道徳の時間の位置付けのパターンを組み合わせる基本構想を立てた。



イ 総合単元的な道徳学習計画表

これまでの理論に基づき、本研究における図2に、各教育活動のねらいや目標を加えて整理したものが、図3である。

【図3：本研究における総合単元的な道徳学習計画】



(3) 検証の実際

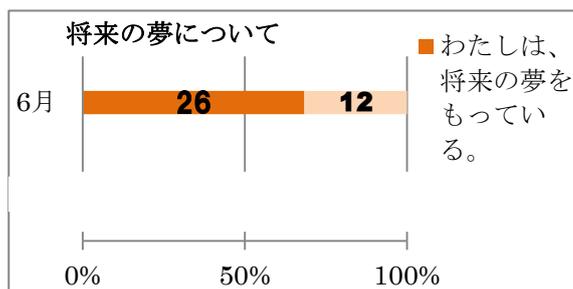
ア アンケートの実施

(新富町立富田小学校 第6学年)

実態に即した手立てをとる必要があるため、38名を対象にアンケートを実施した。

12名(40%)の児童は将来の夢をもっていないというアンケートの結果から「夢や希望」について学習するための事前指導が必要だと考えた。

【児童のアンケート結果 6学年】



イ 事前指導

事前指導を行うことで、児童に一連の学習の見通しをもたせれば、道徳的価値の意識の持続化がより図られ、児童が主体的に道徳的価値に関わろうとするのではないかと考えた。

そこで、朝の活動の時間に、アンケート調査結果を伝え、課題意識をもたせた。

さらに、これから「夢や希望」についての主題で、自分をみつめ、今後の自分の在り方を考える時間を共にくわっていくことを伝えるとともに、道徳の時間の意味や大切さについて確認した。

【朝の活動：これからの学習について】



ウ 道徳 (検証授業 I)

(授業仮説)

他教科・特別活動等との関連付ける前の段階の道徳の時間(パターンA)であり、道徳的価値に対する意識が図られていない。

「夢や希望」の価値について意識するために、展開の各段階において自分の気持ちや考えを深める手立てを行えば、自分のこととして価値を内面的に自覚することができるであろう。

(主題名 夢や希望をもって 第6学年 平成24年 7月4日実施)

【ねらいと資料】

志を立て、目標に向かって希望をもって進もうとする心情を養う。

1-(2) 希望・勇気・努力

【授業の実際】

段階 (時間)	学習内容及び学習活動	指導の実際
導入 (5分)	1 自分の将来の夢や希望について話し合う。 ○ 将来の夢をもっていますか。それは、どんな夢ですか。	★ 自分の気持ちや考えを深める手立て ・ 「夢や希望」というキーワードを掲示し、本時学習の価値への方向付けを行った。

<p>展開 前段</p> <p>(25分)</p>	<p>2 資料「小村 寿太郎」を通して夢や希望について話し合う。</p> <p>○ 寿太郎はどんな気持ちで東京の大学南校に入学したと思いますか。</p> <p>○ 寿太郎は、大隈重信の写真をどんな気持ちで飾っていたと思いますか。</p> <p>◎ 寿太郎はどんな気持ちで天井を見つめ考え込んでいたのでしょうか。</p>	<p>★ 自分の気持ちを確かめさせるためにワークシートに書かせて確認させた。</p> <p>・ 寿太郎の気持ちにより迫ることができるようにするために、動作化させた後に、ワークシートに記入した自分の考えを言わせるようにした。</p> 
<p>展開 後段</p> <p>(10分)</p>	<p>3 夢や目標をもち、努力したことについて話し合う。</p>  <p>○ 今までに夢に向かって、または学校生活の中について目標を立てたことがありますか。それはどんなことですか。またそのためにがんばっていることはありますか。</p>	<p>★ ワークシートに書く時間を確保することで、自分自身を見つめさせた。</p> <p>・ 夢をまだもっていない児童には、学校生活の中で、目標をもってがんばっているだけでもよいことを伝え、自分の思いが素直に出せるように声かけをした。</p> <p>・ 友達にアドバイスや感想をもらう時間をつくることで、自分のことが認められているという実感をもたせるようにした。</p> <p>・ 今までの学校生活の様子を電子黒板に映し出すことで、自分をより振り返らせるようにした。</p> <p>★ 夢・希望・未来のためのパスポート（ポートフォリオ）をもう一度見て、自分を振り返るようにさせた。</p>
<p>終末</p> <p>(5分)</p>	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<p>★ 児童の作文から、一人の児童の夢について紹介し、聞いている児童にも余韻を残して終わらせた。</p> 

(考察)

- 登場人物に対する自分の気持ちをしっかりとたせるために、ワークシートに書かせる時間を確保した後、互いの意見を出し合う場面を設定したことで、意見の違いに気付かせ、価値の内面化を図ることができた。
- 道徳の時間の道徳的価値の意識を持続させるためには、その資料の登場人物に共感し、自分のこととして考えることができるようにしなければならない。展開の各段階の時間配分を考えるとともに、発問の工夫が必要でもある。

エ 学級活動 (道徳の時間との関連を図った授業)

本校の年間指導計画では、11月と2月の題材であったが、夏季休業中にも、児童の道徳的価値の意識の持続化を図り、自らの体験活動に結び付けたいと考え、意図的に時期を夏季休業前に組み込んで実施した。

学級活動 (第6学年 平成24年7月10日実施)

題材 : 将来の夢について考えよう

ねらい : 将来の職業や、理想とする人を考えることで、目標をもたせ、今どうあるべきかを考えることができる。

主な学習活動	授業の実際 ★価値の意識の持続化を図るための手立て
1 将来どんな職につきたいか考える。	★ 事前のアンケートを活用して自分自身を振り返らせる。 (夢・希望・未来のためのパスポート)
2 職業についている人について知る。	・ DVDで職業の情報を紹介し、いろいろな職業があることを知らせる。
3 いろいろな職業があることを知る。	・ どのようにして生きていきたいか、今の段階での見通しを立てさせる。
4 今後の見通しをもつ。	・ より充実した人生を送るためにどんなことを今すべきか考えワークシートに書かせる。
5 今後どう過ごしていくべきかを考える。	
6 教師の説話を聞く。	★ 将来の自分について考えようとする意欲をもたせる。 (夢・希望・未来のためのパスポートに綴らせる)

題材 : 未来をえがこう

ねらい : 希望と勇気をもって生きる態度を育成する。

学習活動	授業の実際 ★価値の意識の持続化を図るための手立て
1 前時学習の振り返りをする。 2 グループをつくり(4、5人程度) 10年後の自分を想像して、自分はどうのような大人になっているかを書く。 3 グループごとに、10年後の自分について話し合う。 4 グループで話し合ったことを全員の前で発表する。 5 教師の説話を聞く。	★ 前回の学級活動でのワークシートや今までの道徳での手紙などを読んで自分を振り返らせる。(夢・希望・未来のためのパスポート) ・ ワークシートを活用して自分の考えをまとめさせる。 ・ 夢に対する理由や実現のためにがんばっていることを書くことで自分を見つめ直させる。 ・ グループごとに10年後の自分について発表し合い、その発表に対してのアドバイスをしたり、友達の意見を聞いたりして、さらに自分の考えを深めさせる。 ・ 自分の考えを全員に広げ、お互いに意見を言い合うことでさらに自分の生き方についての考えを深める。 ★ 夢・希望・未来のためのパスポートに綴って、振り返ってほしいことを伝えるとともに、教師が児童一人一人に宛てたメッセージカードを渡すことで、児童に夢や希望をもたせる。

(考察)

- これまで道徳の時間で、自分の夢について考えていたこともあり、学級活動「将来の夢について考えよう」の学習活動の後半「自分の夢をかなえるためにがんばることを考える」活動において、児童は自分の夢について主体的に考えていた。最初のアンケートをとった際に夢をもっていなかった児童も、道徳の時間に考えていたことで、自分のこととして捉え、漠然とではあるが自分なりの考えをワークシートに書き込んでいた。また、道徳の時間と同じ夢について書いていた児童も多数いた。意識の持続化が図られていると分析した。

学級活動の時間の中で「いろいろな職業について考える」ことや「これからどんなことができるか考える」活動を設けたことで、さらに自分のこととして夢について考えることができた。

児童のワークシートの中に、「夢があることで自分の先のことまで考えることができました。夢っていいな。」という言葉が書かれていた。「夢や希望」の価値について、繰り返し考えていくうちに道徳的価値のよさに気づき始めたといえる。

オ 教育課程外での活動

夏季休業中においても、価値に対する意識の持続化が図られるように以下のような実践を行った。

- 夏季休業中に、自分の夢に関する体験をレポートにまとめる活動を提案した。
- 町主催の「青少年の夢や希望を語る会」にできるだけ参加させ、感想文を書かせた。
- 保護者向けに、夏季休業中における自分の夢に関する体験活動の実施についての趣旨説明の通信を発行した。

【「青少年の夢や希望を語る会」の様子】



【「青少年の夢や希望を語る会」に参加した児童の作文より】

私は、青少年の夢や希望を語る会に参加して思ったことが3つあります。
一つ目はみんな新富町のことを大切に思っていることです。二つ目はみんな夢をもっているということです。とてもいいことだと思います。三つ目はみんな自信をもって参加しているということです。
私も夢があります。自分の夢もかなえたいなと思います。
この経験はとてもよい経験になりました。
生活の中でも生かしていけるといいなと思いました。 (Aさん)

作文に書かれた内容から、児童は発表者の意見を聞き、「私も夢があります。自分の夢もかなえたい。」と自分の夢に置き換え考えている。このことは、道徳的価値に対する意識の持続化が図られているからこそ、発表者の意見に自分を重ねて考えるとともに、自分の夢実現へ向けて、主体的に考えようとしていることを表している。

カ 道徳 (検証授業Ⅱ)

(授業仮説)

これまでの一連の学習を展開の各段階で意図的に想起させる手立てを行えば、道徳的価値についてより自分のこととしての考えを深め、道徳の時間に主体的に取り組むであろう。

(主題名 夢や希望をもって 第6学年 平成24年9月21日実施)

【ねらいと資料】

より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力しようとする態度を養う。

1-(2) 希望・勇気・努力

資料名：「また、勝てばいい 羽生善治」 出典：文溪（宮崎県版）

(25分)	いるでしょう。	
展開 後段	3 自分の生活を振り返って話し合う。 	★ ワークシートに書く時間を確保することで、自分自身を見つめさせた。 
10分	○ 将来の夢のためにずっと続けて努力していることはありますか。	(空手の練習をがんばっている。) (少年団の練習を休まずに行っている。)
終末	4 教師の説話を聞く。	★ 教師の夢を語り、一番身近にいる大人の夢や希望について触れることで、夢や希望をもつことのすばらしさを実感させた。 
5分		

(考察)

○ 導入で「夢についてどんなイメージがあるか」という教師の投げかけにすぐに反応し、学級活動の際に聞かれた自分の夢についての言葉を発表した児童がいた。以前は「夢というものは、もう少し大きくなってから決めればいいことだ。」と言っていたが、夢のことを「夢をもつことはいいことだ。心の支えになるものだ。」という意識に変わっていることが発表の言葉からうかがえる。また、「夢・希望・未来のためのパスポート」を指示がなくても眺め、自分から夢に関わろうとしている児童も見られた。

検証授業Ⅰの時に、時間配分がうまくいかず、展開前段での深まりが見られなかったことを受け、今回の道徳の時間は、展開前段で、主人公の気持ちにしっかりと入るように時間をとり、児童とやりとりを重ねた。このことにより、主人公の気持ちに寄り添うことができ、振り返りの時間には自分をしっかりと見つめることができた。

● 資料が、児童の実態に合っていないと感じた。棋士についての内容であったため、その職業について理解できていない児童が多数いた。児童がより深く自分のこととして道徳的価値について考えるようにするための、資料の取り扱い方が課題である。

キ 国語（他教科・特別活動等との関連）

道徳の時間との関連を図りながら教科の学習をすることで、児童はさらに価値を深めたり発展させたりするのではないかという考えの基、次のような授業を行った。

6 学年 単元名 「作品の世界を深く味わおう」 (全8時間)

教材：やまなし 作：宮沢 賢治 イーハトーヴの夢 作：畑山 博

- 目標 ○ 作品の中で使われている表現を味わい、語感や言葉の使い方に関心をもつことができる。 (関心・意欲)
- 場面についての描写をとらえ、作品の中で使われている表現を味わいながら、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。 (読む)
- 目的に応じて、複数の本や文章を比べて読み、効果的な読み方を工夫することができる。 (読む)

【単元の指導計画 (全8時間)】

時	目 標	主な学習活動
1	○ 学習課題を設定し、学習計画を立て、見通しをもつことができる。	○ 教科書P124の上段を読んで、「作者の考え方や生き方と重ねて作品を豊かに読もう。」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。
5	○ 教材文「やまなし」を読み、「5月」と「月」の情景を読み取り、優れた叙述に気付くことができる。	○ 教材文「やまなし」を読み、「5月」と「12月」の情景を読み比べる。
1 (関連)	○ 「イーハトーヴの夢」を読んで、賢治の生き方についての自分の考えをまとめることができる。	○ 教材文「イーハトーヴの夢」を読んで、賢治の生き方について自分の考えをまとめる。 【評価規準】自分の経験や考え方などとの共通点や相違点を見つけ、共感するところや取り入れたいところなどを中心に自分の考えをまとめることができる。
1	○ 「本は友達」を読んで、本を読み広げる方法を理解し、今後の読書生活に生かすことができる。	○ 複数の本や文章を読み、その特徴や作者の意図をとらえ、読書カードを作成する。

道徳の時間の価値「夢・希望」との関連

本単元の目標の一つに、「場面についての描写をとらえ、作品の中で使われている表現を味わいながら優れた叙述について自分の考えをまとめることができる」という目標を設定している。

この単元目標を受け、第7時の目標を、『イーハトーヴの夢』を読んで、賢治の生き方についての自分の考えをまとめることができる」とした。

宮沢賢治の生き方について記されている「イーハトーヴの夢」の中から賢治の考え方や生き方について書かれている文を選んで、どのような生き方や考え方なのかを自分なりに考え、感想文を書くことが本時の主な活動である。この学習活動は、学習指導要領に示された「取り上げられた人物の生き方や人生等を描いた伝記を読み、自分を見つめ直し自分の生き方について考える言

語活動である」という部分と「伝記に描かれた人物の行動や生き方と、自分の経験や考え方などとの共通点や相違を見つけ、共感するところや取り入れたいところなどを中心に考えをまとめるようにすること」という部分とを具体化したものである。またこの学習内容は、道徳の時間の価値「夢・希望」と深く関わる内容でもあり、本時学習と道徳の時間とを関連させることにより、自分の経験や夢に対する考え方などについて改めて振り返ることができると考えた。そして、自分の経験や夢と、賢治の考え方を比較することで、より賢治の生き方を深く理解し、自分の考えとしてまとめることができるのではないかと考え、授業を行った。

関連を図る具体的な手立てとしては、道徳の時間で学んだ価値を、「夢・希望・未来のためのサポート」で振り返らせたり、教師の児童に対する夢についての言葉掛けにより思い出させ、道徳的価値の意識の持続化を図った。以下、児童がまとめた文である。

私は宮沢賢治の他の人を幸せにする考えはとてもいいと思います。それは、私も将来はたくさんの人たちを笑顔にしたいと思っているからです。でも、まだ今はあまり行動に移せていません。賢治さんのような自分が病気でも他の人のためならがまんするような人になりたいです。(児童 A)

児童Mは、6月に書いた夢の作文では、自分の夢について自信をもって書くことができていなかった。しかし、今回の総合単元的な道徳学習を続け、その学習の中で、繰り返し自分の夢を考えていくうちに、「ヘアアーティストになって人を笑顔にさせたい」という夢をもつようになった。このように自分の夢についての目標を考えるようになった時に、国語科において、本、教材文と出会い、作者の生き方について、自分の考えと比較し共感しながら考え、感想文にまとめることができた。

さらに、次時の「読書カード」を作成する学習活動において、読書カードの中には、以下のような文面が見られた。

「よだかの星」を読んで

(途中文面省略) よだかは、自分の意志で西の青白いお星様のところへいきました。でも、焼けて燃えてしまいました。よだかは、燃えるまで一生懸命自分の夢に向かっていきました。それは、宮沢賢治さんみたいだと思います。(児童 A)

児童Kは、前述の授業後においても、道徳的価値について主体的に考えようとしていた。このように、道徳的価値に深く関わる内容と教科を関連させることで、児童は、道徳的価値を自分のこととして考え、教科の目標が達成されると同時に、道徳的価値についての意識も深められることにつながった。

ク 音楽（他教科・特別活動等との関連）

6 学年 「音楽に思いを込めて」

教材：未来への賛歌（作詞：中田 留美 作曲：佐治 和太）（ト長調4分の4拍子）

本時目標 ○ 歌詞の内容を味わい、言葉を大切にしながら楽曲に込められた思いを感じ取って歌う。(音楽表現の創意工夫)

本時学習の目標は、「歌詞の内容を味わい、言葉を大切にしながら楽曲に込められた思いを感じ取って歌う」である。歌詞の内容を味わうためには、歌詞の内容について深く理解したり共感したりすることが大切である。そこで、歌詞の内容と深く関わる、道徳の時間の価値「夢・希望」

と関連させることで、より自分のことと重ねて歌詞の内容を深く読み取ることができるのではないかと考えた。道徳の時間の価値を、「夢・希望・未来のためのパスポート」で思い出させ、価値の意識を持続させながら、児童に「未来への賛歌」の歌詞の内容を読み取る学習をしたところ次のような反応が返ってきた。

- 「夢をたどれば未来はそこにあるさ」という言葉のところで自分の夢を追いかけていけば新しい自分になれると思った。
- 夢をかなえるために一生懸命努力して近づこうというのが感じられる。
- 「きみをまわっている明日があるのさ。」という言葉が心に残った。失敗した自分を励ましてくれる言葉だと思ったから。
- 「夢をその手に」というところが先生とのこれまでの勉強の意味と似ているなと思った。

児童は、歌詞の内容を読み取る際に、一連の学習の中で、道徳的価値に対する意識やよさに気づき、自分のこととして捉えていることがよくわかる。自分のことと重ねて歌詞の内容をより深く読み取っているために、この後の学習展開でも児童は興味深く曲を聴いていた。そして、自らこの曲を歌おうという主体的な学習につながった。児童は授業後、以下のような感想文を書いていた。

【歌の練習の様子】



- 未来の自分の夢をえがいて夢をその手につかもうと思います。夢をあきらめかけたらこの曲を聴いてまたがんばろうと思います。
- この歌を聴いていると未来のためにがんばろうという気持ちになりました。未来の自分は夢がかなっていると思います。
- 音楽の大切さを知りました。道徳も音楽も忘れません。卒業式でも歌いたいなと思いました。
- 自分のためにつくられた歌みたいでうれしかったです。

音楽と道徳の時間についても、上記のように道徳的価値の内容に深く関わる題材を意図的に取り入れることで、両者の指導効果を相互に高めることができた。

VIII 成果と課題

1 成果

(1) 総合単元的な道徳学習計画について

- 総合単元的な道徳学習計画の中に、同じ価値についての道徳の時間を意図的に位置付け、教科特別活動等と関連させながら授業展開することで、児童が道徳的価値をより自分のこととして捉える主体的な道徳の時間となった。
- 総合単元的な道徳学習計画の作成については、基本パターンをもとに、ねらいと実態に応じて計画を柔軟に作成し、実践していくことが、指導の効果につながるということがわかった。

(2) 関連を図るための指導について

- 道徳の時間と教科・特別活動等との関連を図るために、ポートフォリオを常に活用し学習

展開をしたことにより、児童が道德の時間において、これまでの自分を振り返りながら価値の内面化を図ることができただけでなく、教科・特別活動等においては、内面化された価値を関連付けながら主体的に活動するなど相互に効果を高めることができた。

- ポートフォリオの活用は、教師本来の意図を超え、児童は自分の夢に関するものを自分なりに綴り始め、自分だけの「夢・希望・未来のためのパスポート」を作り始めた。このことは、主体的に「夢・希望」についての価値に関わろうとすることであると捉える。

【児童Aの変容について「パスポート」の記述内容より抜粋】

	6月	7月	9月	12月	12月
題目	夢の作文	学級活動「未来を えがこう」ワーク シートより	夢の作文	音楽の授業の感想	夢・未来の希望のた めのパスポートにつ いて
児童 の 記 述 し た 文 の 一 部	私の将来の 夢ははっき りとはして いません が、サッカ ーが好きで す。	夢があることで、 自分の先のこと まで考えること ができました。 夢っていいな。夢 は自分を支える のだな。	私の将来の夢は女 子サッカー選手で す。サッカー選手 になるために日頃 から人の話をしっ かりと聞くことが 大事だと思いま す。夢があるから サッカーをがんば っています。夢が あってよかったで す。	未来の自分の夢をえ がいて夢をその手につ かもうと思います。夢 をあきらめかけたらこ の曲を聴いてまたがん ばろうと思います。	夢について考える ことができ夢がも てました。その夢に 向かってがんばろう と思いました。パス ポートを開くと自分 の夢がふりかえられ ます。将来が楽しみ になりました。

夢が漠然としている。

成長している自分をみつけ、進むべき
自分が見えてきている。

(3) 夢や希望をもつ児童について

「夢・希望・未来のためのパスポート」についての感想文の中に以下のような言葉が書かれていた。

- ・ 中学校になってパスポートを見直して小学校のころの気持ちをみたいと思う。
- ・ パスポートはいろいろと自分をふりかえることのできるとてもいいもの。宝物だと思う。
- ・ パスポートがなかったら夢について深く考えることもなかったし、夢をもち、私はこれになりたいと確信をもてなかったと思う。
- ・ パスポートに自分の夢をとじていくことがとても楽しい。自分のもつ夢の大切さがわかった。
- ・ パスポートは自分が大人になった時も振り返られるのでいいものだと思う。
- ・ いろいろな宝物をいれたい。夢に向かうためになにをすればいいのか考えられた。
- ・ パスポートは未来の自分の励ましのもの。今の自分が何か夢に向かってできることがとてもうれしい。未来に読むのがわくわくする。
- ・ パスポートを見て、夢についてあきらめないぞと思った。将来の夢を大切にしようと思った。

児童は、「夢や希望をもつ」ことで、これから自分にできることを考え、努力していこうと自分を振り返っていることがわかる。また、毎日の日記の中に、以下のようなことを書いてきた児童がいた。

【児童の日記より】

私は最近まで道徳がすごく苦手でした。その理由はあんまり自分には関係ないと思っていたからです。だから授業を真剣にしたりしませんでした。だけど、今回の授業で道徳って大切なんだなあと思いました。その授業のテーマは「夢」についてでした。私はそれまで、夢についてまだどうでもいいと思っていました。だけど、先生の授業で夢について考えるのっていいなと思いました。将来のことを考えているうちに少しずつ楽しくなってきたからです。道徳は自分のことにけっこう関係しているなあと思いました。

(児童A)

本研究に関わる学習活動の中だけではなく、学校生活や日常生活の中でも「夢や希望」の価値について考え、自分を振り返るという主体的な姿が見られるようになった。

2 課題

(1) 総合単元的な道徳学習計画について

- 本研究においては「夢・希望」の価値項目についての計画・実践であったが、学校や学級の実態に応じて、他の重点指導項目についての総合単元的な道徳学習計画も作成し、実践していく必要がある。
- 総合単元的な道徳学習を計画・実践するために、これからの道徳教育の推進指導體制についても研究をしていく必要がある。

(2) 関連を図ることについて

- 本研究においては、総合単元名（主題）に直接深く関わる内容の関連を図った。総合単元名（主題）によっては、直接深く関わる内容の関連を図るだけでなく、間接的な内容の関連の図り方で、主題に迫ることができるのかという検証についても考える必要がある。
- ポートフォリオ以外での道徳の時間との関連を図る手立てについても検討が必要である。

(3) 夢や希望をもつ児童について

- 本研究においては、道徳の時間を要としての「夢や希望」をもつ児童の育成であったが、これからの教育に大切なキャリア教育の視点からの見直しも必要である。

《引用・参考文献》

「小学校学習指導要領 道徳編」	文部科学省（平成21年）
「山梨県教育総合センター 道徳教育指導資料」	山梨県教育総合センター
「個が生きる総合単元的な道徳学習の発展」 押谷 由夫・愛知県豊田市若林東小学校 著	明治図書（平成18年）
「子どもとつくる総合単元的な道徳学習」 押谷 由夫・岡山県小学校道徳教育研究会 著	東洋館出版社（平成19年）
「ポートフォリオで評価革命」 鈴木敏恵 著	学事出版（平成14年）
第二次宮崎県教育振興基本計画	宮崎県教育委員会（平成23年）